



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：原油生産能力に関するナイーミー大臣の発言

(12日付サウジ・ガゼット紙)

6月12日付サウジ・ガゼット紙（英語紙）は、サウジアラビアの原油生産能力に関するナイーミー石油鉱物資源大臣の発言（コンサルタント会社ペトロリアム・ポリシー・インテリジェンスが10日にロイター通信に掲載したインタビュー記事を引用）について報じた。

1. 現状に非常に満足しており、2020年までにはサウジの原油生産能力を現在の12.5百万バレル／日（B／D）以上に拡大する必要はないだろう。ただし、個人的な直感だが。
2. 1.5百万～2百万B／Dの余剰生産能力を維持する長期政策を堅持し、この水準を維持するために必要な対策については、毎年見直しをする。
3. サウジ原油に対する需要は現在の8.1百万B／Dから、2015年には10百万B／Dに増加するだろう。しかし、世界中でエネルギー効率や再生可能エネルギー、電気自動車が追求されれば、サウジは12.5百万B／D以上の生産をする必要はないかもしれない（サウジは世界石油需要の増加が保証されれば、生産能力を15百万B／Dまで拡大する用意があると過去に発言していた）。
4. サウジは12.5百万B／Dの生産能力維持のために、今後5年間に200億～300億ドルの投資を行なう予定であり、2012年から新しい上流プロジェクトが立ち上がるだろう（現在計画中的の大規模なプロジェクトは、2013年に生産を開始し、2015年に完成する予定の900千B／D規模のモニーファ油田のみであり、160億ドル近くが投じられる見込みである）。
5. アラムコとダウ・ケミカルの石油化学合弁プロジェクトが、立地をラアス・タンヌーラからジュベイルに変更したことは、数十億ドルの削減につながった。立地変更により、既存のジュベイル製油所との相乗効果が生み出されるだろう。
6. アラムコはコノコ・フィリップスが離脱したものの、自力で400千B／Dの精製能力を持つヤンプー新製油所の建設を進める計画である。このプロジェクトの内部投資収益率（RR）は、当初の7～8%から、再入札の結果16%に改善された。

7. その他のアラムコによる製油所新設プロジェクトして、ジザーン製油所が 2014 年までに完成する予定。
8. サウジは高い国内需要成長に対応するために、エネルギー効率の向上を促進している。
9. 必要であれば、コスト回収と利益確保のため、国内の天然ガス販売価格を値上げすることも検討している。
10. サウジは天然ガス生産能力を、現在の 100 億立方フィート／日 (cfid) から 2015 年には 155cfid に拡大する計画である。